

# 当たり前なんかじゃない みんなすごいのだ！



「人を傷つけることだけは絶対にしない」、「勉強は算数と国語だけ頑張る」、「うまくならなくても何かしら運動はする」。二〇二四年の目標、ではなくて、これはまもなく小学校を卒業する次男の六年間の目標でした。

「全員同じことをするのが当然」とする集団生活への拒否反応から小学校に入学してまもなく、心因性難聴になった次男。耳からの指示が入りづらいという特性を持っていることも分かり、その上IQも低いし、運動でもなんでも、何をやってもうまくできないと病院で言い渡された小学校生活のスタートでした。

整理整頓ができない、忘れ物がひどい、丁寧に書けない、態度がかいなど、直すべきことは数えきれないし、これらのことももちろん注意してきましたが、核としていたことは冒頭の三つの目標。目標を絞り、腫れ物扱いもせず、期待もせず、六年間見守ってきました。

やるのが当然とされることを「当然」だと受け取らない次男が私のところにやって来たことは、「当たり前」のことなんかないと、教えるためだったのかもしれない。

長男は学校行事に全身全霊を注いで盛り上がるタイプだったのですが、それって当たり前じゃなかった、楽しくて素敵なことだった！運動会も音楽会も乗り気じゃない次男のおかげで今頃気づきました。

中三の夏にタイから帰国した長女は普通なら気の重い編入時期だろうに、一日目から誰とでも仲良くし、環境の変化への異様な強さを見せました。それも当たり前じゃない、拍手を送らねば！友達に嫌な思いをさせていないか、ヒヤヒヤさせられる次男のおかげで気づけました。

次男はやりたくないことは断固としてやらないし、やりたいことはやってはいけない場面でもやってしまう性分。「欲望に素直すぎるオトコ」と

すると、できるようになりましたよ、特に算数。クラスでは分からない友達に教える側にまわっています。国語は得意というまではいきませんが、内容さえ面白ければ大人用の本も読むようになりました。本が読めるようになることが国語を頑張らせた理由です。これから先、何かを知りたいと思った時に、難しめの文章を読む力とそれを母国語で考える力があれば、いつでも学べるからです。やればできるようになるものでしたよと、一年生の時に診察してくださった医師に報告したいくらいです。

何より、勉強が大嫌いで苦手意識があった本人の自信になりました。自信がついたことで、心因性難聴が治ったのかなとも思っています。

私は自分自身が、学校の先生の指示に何の疑問も持たず、言われたことをそつなくこなす子供でした。だから自分を基準にして子供たちを見てしまっていたのですよね。「全員

家で呼ばれています。家でも学校でも怒られてばかり。でも全然めげない。評価も人の目も気にしないことは、ちょっとうらやましいくらい。なぜか次男はまじめな子からいつも慕われてきて、それが不思議だったのですが、優等生タイプからすれば、自由へのあこがれなのでしょうかね。

それに、やりたいことをやる、やりたくないことはやらない、というのは本質を突いているのかも。頭がこんがらがっちゃった時には、しがらみとか人の目とか一回全部忘れてシンプルに。やりたいのかやりたくないのかで決めたら気持ちいいですね。すごいじゃないか、次男！



文・写真  
小宮華寿子  
二男一女の母で  
編集者。「ブラジルの  
手仕事ワークショップの店「メルカジーニョ」  
(<https://mercadinho.net>)代表。



イラスト・  
デザイン  
寺沼麻美  
切り絵作家、時々  
デザイナー。「ゆ  
らゆらゆれる北欧風手作りモビール」  
【ネコ・パブリッシング】を監修。